

2023年4月5日

第482号

毎月5の日発行
定価1部10円 年500円千共
組合員の購読料は組合費の中に含む

林野労組

発行所

全国林野関連労働組合

東京都千代田区霞が関1-2-1

☎ 03-3519-5981

Fax 03-3519-5984

白熱した議論交わされる 第19回定期中央委員会

2月24日、本部は、第19回定期中央委員会を林野会館で開催（WEB併用）しました。今後の国有林事業の推進に係る諸課題の前進に向けた取り組み及び2023春闘方針について確認しました。

委員会は、議長に選出された梶原（四国地方）、前川（九州地方）の両中央委員により、議長進行が行われました。冒頭、中村委員長は、次のとおり開会挨拶しました。「政治情勢について、政府は、昨年11月に「安保3文書」の改定を閣議決定した。これは、平和第一の方針転換・外交努力の放棄といえ、到底容認できない。野党には、岸田政権の「国会軽視」を許さない取り組みを求めるとともに、統一地方選勝利に向け、林野労組としても、さらなる団結が必要である。

2023春闘について、連合は、5%程度の賃上げを目標に掲げている。近年の実績を大きく上回らなければ実質賃金は低下する。本春闘を大きな転換点と捉え、取り組み強化が必要である。国有林野事業の推進について、森林官の2級切下げが人事院から求められた。森林官の重要性を国会でも議論している中、このような結果となったことに憤りを感じる。空席問題を放置してきた林野庁当局の責任を追及する。また、現場を重視した要員配置等、職場の実態改善に向けて取り組みを進める。この春闘において中央団交を配置し、取り組み強化を図るので、各職場段階でも交渉強化をお願いする。

組織・定員について
森林官の2級切り下げ問題については、これまで5級（地域統括森林官）、4級（首席森林官）、3級（森林官）で整理されてきた職務職責との関係を整理させる必要があるのではないかという意見が出されました。

質 疑 応 答
本委員会は、様々な課題についてしっかりと議論し、今後の取り組みにつなげていきたい。」
続いて、祝電披露の後、鳴川書記長から議案提起、三品財政部長から予算・中間決算報告、奥村会計監査委員から監査報告が行われました。その後、質疑応答が行われました。



対面での開催となった、第19回中央委員会

職場状況を踏まえた要求書を当局に提出し交渉を行うことや、職場集会等で交渉状況を共有す

ることを、学習会を定期的に開くことが重要。また、林野労組の取り組みを内外に発信していきたい。

本委員会では、様々な課題についてしっかりと議論し、今後の取り組みにつなげていきたい。」

続いて、祝電披露の後、鳴川書記長から議案提起、三品財政部長から予算・中間決算報告、奥村会計監査委員から監査報告が行われました。

その後、質疑応答が行われました。

本委員会は、様々な課題についてしっかりと議論し、今後の取り組みにつなげていきたい。」

続いて、祝電披露の後、鳴川書記長から議案提起、三品財政部長から予算・中間決算報告、奥村会計監査委員から監査報告が行われました。

その後、質疑応答が行われました。

本委員会は、様々な課題についてしっかりと議論し、今後の取り組みにつなげていきたい。」

続いて、祝電披露の後、鳴川書記長から議案提起、三品財政部長から予算・中間決算報告、奥村会計監査委員から監査報告が行われました。

その後、質疑応答が行われました。

本委員会は、様々な課題についてしっかりと議論し、今後の取り組みにつなげていきたい。」

続いて、祝電披露の後、鳴川書記長から議案提起、三品財政部長から予算・中間決算報告、奥村会計監査委員から監査報告が行われました。

その後、質疑応答が行われました。

本委員会は、様々な課題についてしっかりと議論し、今後の取り組みにつなげていきたい。」

続いて、祝電披露の後、鳴川書記長から議案提起、三品財政部長から予算・中間決算報告、奥村会計監査委員から監査報告が行われました。

も連携し引き続き取り組みを進める。」と回答しました。

事業予定等に関する課題について

樹木採取権制度に関し、「今後の樹木採取権設定に関する方針について」が昨年末に公表された中、今後どのような姿勢で交渉を進めるのか質問が出されました。

本部は、「局署における具

体の業務について整理を図るため交渉を進めたい。また、「地域における需要動向を踏まえた対応に留める」「国有林へのコンセッション方式の導入の阻止」を要求するとともに、国有林野管理経営法に掲げる附帯決議の遵守を求め交渉を継続する」と回答しました。

「人材情報システム」の導入に関しては、「研修や十分な習熟期間もなく導入された。本庁での先行導入の際の経験も活かされなかった。出動打刻についても、PC立ち上りの遅さから修正が頻発している状況。農水省独自で導入した意義について疑問が残る。」との意見が出されました。

その後、委員会スローカー

ン、委員会宣言についても採択されました。

最後は、中村委員長の「団結力」で閉会しました。

林野労組は、本委員会で確認した春闘方針に基づき、取り組みを進めていきます。

先日、連合主催の春闘パレードに参加した。土曜の屋下がり、本部メンバー数人と参加し、芝公園から日比谷公園までの約2kmの官庁・オフィス街を、連合加盟の他組合員とともに練り歩いた。春闘の成功に向け、春らしい色とりどりのカラーボードで「賃上げで、変えよう未来を！」と格差是正で、変えよう未来を！」とシュプレヒコールを上げた。練り歩いている連合事務局メンバーの中には、過去の平和活動と一緒に行動した仲間もおり、束の間ではあったが、昔話に花を咲かせることができた。また、本記事にもある要求実現3・7中央集会に参加した際は、本庁本部の仲間や他組織の旧友とも交友を深めることができた。賃上げや労働環境改善のための主張を訴えるだけでなく、思いをともにする仲間と貴重な時間を過ごすことができたのは、まさに「一石二鳥」だ。様々な場面でも人とのつながりを感じられるのも、労働運動の醍醐味だと思う。労働運動の楽しさを感じたひと月だった。コロナ禍にあった様々な規制が緩和されつつある中、「集まって、話し合う」「それぞれの悩みを共有する」といった、あたりまえの活動がようやく再開できつつある。春には新たな出会いもあり、また、労働運動を象徴するイベントであるメーデーも開催される。ひとつひとつの出会いを大切にしていきたい。



挨拶する中村議長

公務労協
公務労協国家公務員関係部会は、2月17日、東京・全通会館ホールで2023春季生活闘争に向けた春季学習集会を開催しました。

集会の冒頭、主催者を代表し、中村国公部会議長（林野

労組委員長）は、「今期の春闘は例年になくその成果が目ざれている。連合は物価上昇を上回る、5%の賃上げ目標を掲げている。しかし、物価上昇分の販売価格への転嫁率は5割程度との観測もあり、また、中小企業のうち46・9%は、上部大企業からの請負代金への反映を行っていないとの報告がでている。経団連はベアには前向きな意向を見せつつも、5%の賃上げは困難との態度を示しており、大企業には誠実な対応を求めている。」

また、協約締結権を有する

し、中村国公部会議長（林野

労組委員長）は、「今期の春闘は例年になくその成果が目ざれている。連合は物価上昇を上回る、5%の賃上げ目標を掲げている。しかし、物価上昇分の販売価格への転嫁率は5割程度との観測もあり、また、中小企業のうち46・9%は、上部大企業からの請負代金への反映を行っていないとの報告がでている。経団連はベアには前向きな意向を見せつつも、5%の賃上げは困難との態度を示しており、大企業には誠実な対応を求めている。」



No.286

10年ぶりのアピール行動

2500人が日比谷野音に集結

連合は、3月7日、2023春季生活闘争のヤマ場に向け、「2023春季生活闘争政策・制度要求実現3・7中央集会」集会を開催しました。

合計2472名(会場参加1818名、WEB参加1291名)が集結し、「くらしをまもり、未来をつくる。」を合言葉に、回答引き出しに向けた決意を新たにしました。

昨年を上回っている。2014闘争以降、継続してきた賃上げの流れのギアを上げ、ステージを変える転換点にしなければならぬ。月例賃金にこだわり、粘り強い交渉を積み上げていきたい」と述べるとともに、「春季生活闘争と運動の両輪をなす政策・制度実現の取り組みも非常に重要。取り組みを強力に推進していかねばならない」と訴えました。

続いて、立憲民主党の泉健太代表と、国民民主党の玉木雄一郎代表から、それぞれ激励の挨拶がありました。また、現場からの訴えとして

要求実現3・7中央集会

冒頭、芳野会長は「月例賃金改善を要求した組合数、及び、賃上げ要求の額・率とも



集結した2500人による「がんばろう三唱」



交渉に臨む青年女性委員

1日目は、開会集会及び情勢報告が行われました。冒頭、田中青年女性委員長から「職場や生活の環境には様々な課題があり、そういった課題を集会などを通して、要求へと繋げていくことが大切である。また、中々会うことのない全国の仲間と交流を図れる場であるため、積極的に意見交換を行ってほしい。」と挨拶がありました。

情勢報告では、天田組織部長から国内外の政治情勢、春闘を取り巻く情勢、国有林野事業を取り巻く情勢、実態改善と組織強化について報告を受けました。

2日目は、問題提起、森林労連共済オルグ及び分散会討論が行われました。

問題提起では、各地本参加者から、要員不足による若手職員の負担増加の実態、業務

青女委

職場実態を基に交渉実施

23春闘学習交流集会に集う

【青女委・山名通信員】
青年女性委員会は、3月3日～5日に23春闘学習交流会を実施しました。3年ぶりに対面形式で行い、全国から23名(地本参加者15名、中央常任8名)の仲間が集いました。

1日目は、開会集会及び情勢報告が行われました。冒頭、田中青年女性委員長から「職場や生活の環境には様々な課題があり、そういった課題を集会などを通して、要求へと繋げていくことが大切である。また、中々会うことのない全国の仲間と交流を図れる場であるため、積極的に意見交換を行ってほしい。」と挨拶がありました。

情勢報告では、天田組織部長から国内外の政治情勢、春闘を取り巻く情勢、国有林野事業を取り巻く情勢、実態改善と組織強化について報告を受けました。

2日目は、問題提起、森林労連共済オルグ及び分散会討論が行われました。

問題提起では、各地本参加者から、要員不足による若手職員の負担増加の実態、業務



議員面会所で、野党議員と

中央集会の前段には、10年ぶりのアピール行動が実施されました。489名が集結し、芳野連合会長を先頭に、日比谷公園から国会まで約1.6kmを行進しました。衆議院議員面会所では立憲民主党・西村智奈美代表代行および国民民主党・前原誠司代表代行に、参議院議員面会所では立憲民主党・水岡俊一参議院議員会長および国民民主党・舟山康江参議院議員会長にそれぞれ要請書を手交し、激励を受けました。

林写協が55年の歴史に幕

【林退会・村山通信員】

林写協は2月18日、東京・林



林写協解散総会

野会館で総会を開き55年の歴史に幕をおろしました。今後の活動は中央に若干名の役員を残し各支部との連携で活動が続けられることを確認しました。

総会冒頭、中央役員だった木村和さんが1月に亡くなられたことから全員で黙祷しました。

挨拶に立った丸田泰史会長(四国)は「1968年、大阪からスタートし全国に輪を広げた林写協は全林野の文化活動の一環として多くの仲間を結集しました。活動は仲間写真展や写真集の発行。とくに2000年のデジタル等へのピーク時には、1回の写真展だけでも約2500人・700枚の応募がありました。こうした深い歴史の中でも合理的な化を受け、会員の減少が続いて支部代表者から役員のみならず、最近では新型コロナウィルスの影響が決定的となりました。とくに中央の解散は仲間と諸先輩には大変申し訳ありません」と苦渋の決断を述べました。伊藤千代美事務局長(札幌)から今後の活動に

態が出されました。討論を行うことで、それぞれが抱えている問題を共有し、交渉に向けて論点を整理を行いました。また、働く場所が違っても同じような問題を抱えている仲間がいると知ることができ、交渉に向けて参加者の思いをひとつにすることができました。

3日目の林野庁交渉では、「賃上げ・諸手当について」「要員要求について」「諸権利について」「職場環境改善

量や人間関係により仲間が傷心しているという悲痛な現状等が出されました。また、現場に精通した職員がいなかったり、森林官補が事務所に1人で配置されていることがあるなど、現場の課題も出されました。今後の職場への実態改善が提起され、各地本で抱えている課題を参加者全体で共有することができました。

森林労連共済オルグでは、生活の中の補償の重要性、森林労連共済の優位性の説明を受けました。

分散会討論では、4つの分散会に分かれ、職場や生活の実態を出し合いました。「有害鳥獣駆除の手当が足りない」「GIS、GPS、ドローン関係の使用が若手職員に任せすぎになっている」「寒冷地手当の支給額が変わらないため、高騰した暖房代に見合わない」などの具体的な実



2023年度の経済展望

2月17日に開催された、公務労協主催学習会(本紙一面参照)の内容から、昨今の経済情勢と労働組合に求められる役割等について解説します。

2023年の労働者を取り巻く経済情勢は、不安定な国際情勢の影響により、国内では物価高に悩まされています。しかし、原油先物価格の動向は下落傾向にあり、この資源高は長く続かないことが見込まれるとのことです。これが実態経済に反映されるのは半年ほどのタイムラグがあることですが、物価高が改善される可能性があります。

世界の労働運動の傾向として、労働組合が様々な取り組みを行っています。1人当たりの国家公務員数が

多く、逆に、国政への信頼度が低い国では、国家公務員数が少ない代わりに、地方公務員数が多い結果のことです。ここ数十年の自民党政権による国政運営の失敗が、我々の職場環境に影響を及ぼしているとも言えます。

林野労組は、春闘勝利に向け、連合・公務労協と連携を取り組みを進めます。